

ボールの特性レポート BALL REPORT



| | | |
|-----------------------------|---------------------|--------------------------|
| ボール名 プライムタイム・ソリッド | 投球者 徳江 和則 | センター 平和島スターボウル |
| RG 2.490 | △RG 0.050 | ●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール |

テストボール：プライムタイム・ソリッド

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

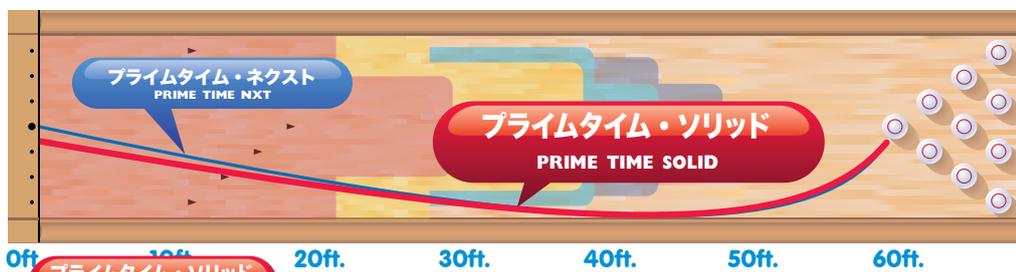
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：ナノデス・アキュドライブ

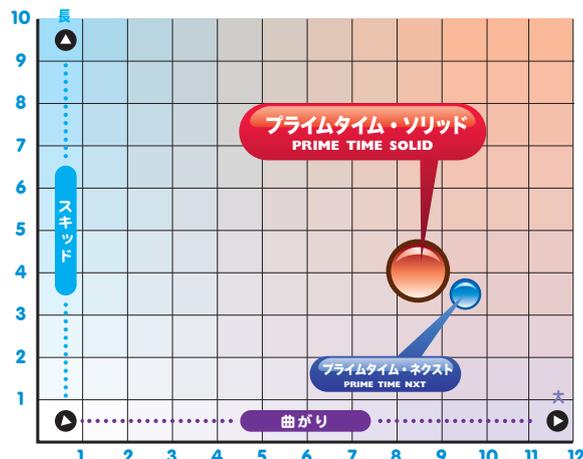
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

「低慣性ならではの転がりの良さに安定した持続的なキャッチをプラスさせる」

現代のボール開発における動向は、以前のように先の動き中心で進められることと平行して、ソリッド素材のような持続的なキャッチを生み出せるスペックも多くなりました。それはパールやハイブリッドのバックエンド重視のスペックに加え、ハイスぺックなウレタン素材が生み出されたことでコンディションへのアジャストが多様化され、ソリッド素材のもつ物理的特性が対応に必要な不可欠となったためと言えるでしょう。それもボールの進化につれてコンディションの変化もより複雑化され、その対応の課程でボウラーが必要としているもの、それがニーズなのだと思います。ウレタン素材がハイスぺックに進化したことと同時にSolid素材も少し前とはケミカルで大きく変化を遂げています。以前と比べピンヒットまでエネルギーロスがなく、ソリッドの適正を保ちながらバックエンドにパワーバランスを傾けたソリッド素材もあるほどです。今回のPRIME TIME SOLIDは転がりやすいコアの特性を活かして中盤から後半までエネルギーが残るソリッド素材を抽出して、ソリッド素材でも物足りなさが全く感じないほど扱いやすさの中に動きの良さを感じて頂けると思います。パールやハイブリッドで投げると先で動き過ぎてしまう。でもその中から投げようとすると走り過ぎてしまう。そんなときにこのPRIME TIME SOLIDを投げると今まで見えなかったラインが見えるかもしれませんし、ソリッド素材のボールを投げる意味も分かるのではないかと思います。ただ曲がればよい次元ではなく、ラインに対し幅を感じられるようボールチェンジするのも現代のアジャスト事情とも言えるでしょう。

特記事項

Solid素材の特徴を活かしながらか動きを緩慢にさせない独自抽出のカバーを採用することで、以前のSolidとはくらべものにならないぐらいアクティブな動きを可能にしました。